

千葉県国土利用計画地方審議会第7回調査検討部会 議事概要

1 日時 平成18年3月2日(木) 午後1時30分から

2 場所 千葉県庁中庁舎3階第1会議室

3 出席者(委員)

高橋部会長、親泊委員、嶋田委員、山田委員、山本委員

4 議事

1) 開会

2) 議事

中間報告書の取りまとめ

事務局から、当初予定では、中間報告書(案)の冊子を提示し、全体的に意見をいただいた上で、中間報告書を決定する方向で検討していたが、調整未了部分が多かったため、中間報告書(案)の全体的な最終確認に至らなかったことを説明。

このため、急遽「第7回調査検討部会の視点」として、①最終報告書のイメージ及び今後検討すべき事項の項目等について、②中間報告書の目次、第5章の構成及び第7章の構成等について、意見をいただいた。

第4次千葉県国土利用計画の項目について

事務局から、今後検討していく第4次千葉県国土利用計画の構成(試案)を提示し、意見をいただいた。

3) その他

本年度内の再度の部会開催は、日程的に不可能であるため、今後、各委員に文書で意見照会等をした上で、中間報告書を取りまとめることでは了承された。

4) 閉会

5 主な発言内容(順不同)

(1) 最終報告書のイメージ及び今後検討すべき事項の項目等について

○「県土の利用・保全上の課題」の「問題解決に向けた課題」の中に森林の減少が入っていない。

- ライフスタイルという言葉の幅が広い。共通の認識をもった方がよい。第1次産業・環境に基盤をおいたライフスタイルという考え方もある。
 - 「美しい景観の維持」という表示は、美しい「郷土」景観、または「地域」景観などとしたほうが、地域性が浮き立つと思う。
 - 県土利用のビジョンについて、自然環境保全という方向だけに傾いてしまっているのか。開発という視点もあるべきではないか。
 - 「保全型」という千葉県の特長を出すという選択肢もあるのではないか。
 - 「保全型」という方向へ視点を変えることには賛成するが、国土利用の中でメリハリをつけるためにも、全体もきっちり述べるべきではないか。
 - やはり、保全と開発のバランスが必要。例えば、砂利取りをどうするかであるが、森林減少の大要因となっているが、逆で言えば、羽田の埋立などの経済行為として行われる。絶対的にダメとはいえないと思う。産廃についても、これだけの経済活動をしている以上、ゼロとはいえない。
 - ビジョンという面において、千葉県は、首都圏の中での位置づけ、連携としての視点が必要。
 - 経済効果という意味でも観光を重視すべきではないか。
 - 例えば、房総地域など、全県一律にこうあるべきだというよりは、地域特性を出した方がいい。
 - 臨海部は、ほとんどが工場であり、親水性がない。臨海部をもっといい空間にできないか。
 - 都市をどうするのも重要である。都市のコントロールができないと、農地・森林も守れない。
 - 県民に求めるものという項目こそ、協力してもらったメニューを書き込むべきではないか。
- (2) 中間報告書の目次（構成）、第5章及び第7章について
- 目次の2「千葉県を取り巻く社会・経済状況の変化」は、小見出しが多くあるが、このところは、一般論として部会では議論していない。やるとなれば、膨大な検討期間を要する。総論的なものは除いたほうがいい。

○第5章をビジョンと表記するには、キャッチフレーズ的なものがほしい。全部をカバーしようとせず、インパクトのあるものに絞ったほうがいい。

○言葉の使い方で、独自性が出てくるのではないか。

○第7章についてであるが、構成がおかしい。再編成すべき。内容的に分類すれば、①制度の強化・充実、②行政の強化、③県民の参加 の3つになるのではないか。

(3) 第4次千葉県国土利用計画の項目について

○「目標管理」という意味で、ビジョンを達成するために何を目標値とするかが、重要。「面積」とは限らない。

○例えば、地球温暖化問題であるが、日本人が放出する炭酸ガスを森林で固定するには、一人当たり2.5ヘクタールの森林が必要となる。そうするとまったく足りない。

○原因者による補償という考え方がある。「外部性」に対する対応という視点を、思想として出すべきではないか。

○県の計画だけではダメである。市町村レベルの強い意見が必要。市町村との連携がなければダメ。